

(2) 陣地之狀況ニ關スル細部

(1) 起工時期 昭和十九年七月

所要人員 一百平均約一萬五千

使用資材 木材 約八萬石

爆藥 約三十五七七

(2) 完成時期 昭和二十年六月末

但ニ補強工事ハ終戦迄續行セラル

強度ハ掩蔽部、掩銃、掩砲所ハ五〇口径爆彈ニ抗

シ得ル洞窟式

0970

2. 機關銃陣地 殆_レ下全数一〇〇名一五〇名
爆彈ニ抗_レ得ル洞窟式別ニ稍_レ輕易ナル豫
備陣地三個以上ヲ有ス

3. 砲兵陣地 五〇名一〇〇名砲彈ニ抗_レ得
ル洞窟陣地一門一個以上

一〇〇名以下ノ爆彈ニ抗_レ得ル豫備陣地一門
付二一三個以上

4. 掩蔽部 岩盤地帯ノ厚サ七米以上ノ尋常
去厚サ三米以上

0971

5. 掩銃掩砲所 掩蔽部ト同様ナリ

6. 散兵壕 無胸墻 蓋付ノ塹壘

7. 交通壕 暗路式又秘匿式

8. 障碍物

A 水際障碍物

a 乱杭、拒馬 全長約一萬二千米

b 電氣發火爆彈地雷 三〇〇

c 小型機雷 一五〇

d 電氣發火水雷 約二千米

0972

B 戦車障碍物

踏落式陷穽ヲ主トシテ部對戦車壕

主陣地前方ニ帯ヲ概成

土質ニヨリニ帯ヲ構築セルトコロアリ

C 人障碍物

鉄條網及軌條利用星型障碍物ニヨリ

主陣地前及前方據点ニ帯ヲ概成シアリ

(1) 敵攻撃手ニヨル破壊補修^修状況

艦砲射撃一回(戦艦ニ隻ヲ中心トスル廿八隻ニテ四

0973

十糧、十二七糧彈約四〇〇發)ハ何等陣地ノ破壊ナシ

爆撃ニヨリ損害ハ飛行場周邊陣地ニ於テ若干認メラレタ
ルモ大ナラス直チニ補修セリ

(二) 港灣施設及飛行場施設

ハ 港灣施設

宮古島ノ曉部隊出張所ニ於テ長約五十米ノコンクリート
埠頭ヲ更ニ百五十米應急的ニ延長シ海中ニ突出セシメ
タルヲ以テ二百屯級機帆船ノ横付揚陸ヲ可能ナラシメ
タリ中電作戰前補給爲大ニ利用セラル但ニ終戰

0974

前六相當破壊セルヲ以テ工兵隊ヲシテ戦後之ヲ修復セ
シメ兵器奉還作業及歸還輸送ニ多クノ便宜ヲ得ル
ル宮古島ニ於ケル陸軍飛行場ハ昭和十九年五月先着シテ
リシ第三百五飛行場大隊長之ヲ擔任シ海上遭難セル
第三百九野戦飛行場設定隊ノ殘部ト共ニ作業中ナリ
シカ同年八月師團司令部ノ上陸以來本作業ヲ擔任シ
依然同大隊長ヲシテ實施セシメタルモ島民ノ協力意ノ
如クナラス八月末ニ於テハ中飛行場ニ滑走路ノ二分一西
飛行場滑走路ノ五分一ヲ實施セルノミニシテ所命ノ事

0975

ニ尚未着手ニ滑走路及各種附屬施設ヲ殘ス状態トナ
リタルヲ以テ師團全カヲ以テ一ヶ月^内之カ設定ニ當ルヲ決メ
九月中ニ完成ヲ期シ眞ニ晝夜兼行凡有ノ障碍ト苦難
トヲ克服シ十月五日遂ニ之ヲ完成セリ

陸軍中飛行場施設

滑走路 南北長一五〇米 巾二〇〇米 (巾五〇米長三〇〇米 終カ)

東西長一五〇米 巾一五〇米 (同)

右)

掩體 普通掩體 中型用 三〇

秘造掩體 中型用 一三五
小型用 一〇五

0976

誘導路 全長一萬米 大部はマダカム簡易舗装

指揮所 厚一米五〇鉄筋コンクリート^建 高等司令部用^棟 (補修中)

通信所 厚一米 鉄筋コンクリート^建 一棟

指揮通信施設ヲ完備ス

附屬施設(建物) 急造菅葺建物 五〇棟

居住施設完備ス

陸軍西飛行場施設

滑走路 長一五〇米 中一〇〇米 (中五米長一三〇米ヲカ舗装)

掩體 普通掩體 中型 三〇

0977

秘匿掩體 中型二五

誘導路 全長約 三五〇米 大部ハマダカ簡易鋪裝

指揮所 木造建一棟 戦闘間破壊

附屬建物 萱葺木造 三棟 同 右

ハ石垣島陸軍飛行場ハ獨立混成第四十五旅團ノ報告ニ
據ラレ度

3 作戰準備ニ關スル主要ナル命令ノ内容

イ 昭和十九年九月一日

師團全カ一月ノ豫定ヲ以テ陸軍飛行場ノ建設ニ關スル命

九
七
〇

0978

令ヲ下達ス

昭和二十年二月十日

自活態勢強化ニ關スル命令ヲ下達ス

昭和二十年三月一日

補給船ノ掩護ノ目的ヲ以テ對空能力不足ノ主力ヲ平良
港ニ展開ス

昭和二十年四月一日

隨時全兵力ヲ以テ至短時間ニ飛行場補修ヲ完成スル如ク
命令ス

0979

水昭和二十年四月十日

陸海軍飛行場ノ對空火力ヲ增加スル爲七五砲以下之
砲及所ノ全力ヲ展開ス

ハ昭和二十年五月

伊良部島ニ在ル碧部隊主力ヲ宮古島ニ轉進セシメ碧
部隊長多賀少將ヲ北地區隊長トス

ト昭和二十年六月

台湾ヨリノ補給ヲ決意澳船ヲ以テ米及其他若干ノ補給
品ノ輸送ヲ強行ス

0980

軍需品集積状況

一の集積輸送ノ状況 (別表第五参照)

の糧秣 糧秣ハ米、食塩、茶ヲ台湾軍ヨリ副食物調味品類其
他沖繩第三軍ヨリ各船舶輸送ニ依リ補給セラレ昭和十九
年七月集積ノ進駐開始以來同年十月ニ至ル間ニ於テ主食ニ
重兵ヲ指向シ實施セラレタリ

同年十月末現在ニ於ケル之ガ主名補給量ハ左ノ如シ

玄米 七三〇〇屯 (七五五屯定量ニ七、〇〇〇名約十三ヶ月分)

食塩 三〇〇屯 (三〇五屯定量ニ七、〇〇〇名約十四ヶ月分)

0981

罐詰肉四五〇屯（三五瓦定量二七〇名約七月分）

馬糧用穀類一七〇屯（四〇瓦定量五五頭二五月分）

其後、常續補給ハ極メテ微々タルモ、ニシテ僅カニ大豆三九屯、味噌二五九屯、醬油二二屯ニシテ昭和二十年二月末、沖繩本島ヨリ大健丸入港ヲ以テ最後トシ、爾後輸送ハ全ク杜絶セラレタリ

然レトモ五月ニ至リ、現地自活ノ進捗度ト糧秣保有量ノ現況トニ鑑ミ、更ニ玄米一三〇屯、食塩五〇屯ヲ目途トシテ、台湾宮古島間ノ海上強行輸送ヲ企圖シ、六月末遂ニ實施ニ着手シ、終戦時迄ニ玄米五〇屯、食塩約一屯ノ輸送ニ成功セリ。之カ経路ハ

台湾一西表間ハ台湾軍ノ推進補給ニ裏一宮古島間ハ集團ノ船舶輸送ニ據リ

①被服、被服ハ昭和十九年七月進駐時、裝備ニシテ宮古島上陸後襦袢、袴下及毛布、補修材料等一部補給ヲ受ケタル程度ナリ

②需品、需品ハ進駐以來日用品、塵紙、事務用消耗品、殺蟲劑、防蟲劑等若干、補給ヲ受ケタリ

③現地自活ノ状況

④農産(甘藷)

0983

集團進駐頭初ヨリ急速ニ飛行場設定作業陣地構
築作業ニ専念シ自活方面ニ於テ生野菜ノ栽培ヲ奨励シ
昭和二十年一月糧秣補給困難ニ狀況ノ下ニ於テ甘藷ニ依ル
完全自活ノ計畫ヲ樹ク同年九月以降之カ實現ヲ企圖シ
三月以降ニ毎月兵一名當ニ畝ノ植付ヲ實施セシメ七月六日反
一畝ヲ完了スル豫定ナリモ各部隊ノ努力ニ拘ラス三月以降ノ
空襲激化ニ爲豫期進捗ヲ見ス一方初期ニ於ケル植付技
術ノ拙劣トシ六月中阜數下ニ禍多シ植付面積ハ其半ハニ
過キル狀況ニシテ給養確保上憂慮スルキ状態ニ在リタリ

0984

護和ヒレタト終戦後於テ全カヲ以テ自治ニ邁進セリ
八月以降概テ自治態勢確カ見ルニ至レリ

製塩

製塩ニ甘藷灰キ之ニカヲ注キ製塩所ヲ二箇所開設シ銳
意増産ヲ圖リ終戦時八月ニ於テ之カ成績ハ集團所要量
ノ約六〇%ニ達シ且各部隊小規模製塩ト相俟テ其ノ補給
ヲ要セサル状態トナレリ

水産

獸肉資源僅少ナル宮古島ニ於テ肉資源ハ擧テテ魚肉ヨリ

確保スヘク鯉漁業剝舟ニ依ル雜魚漁業ヲ大々的ニ實施
ノ計畫ヲ樹之セルモ昭和十年三月以降ノ空襲爲鯉漁業全
ク不可能トシ決死的作業ヲ以テ剝舟ニ依リ雜魚ヲ獲得セリ

(三) 味噌其他

主要原料タル大豆小麥ノ現地取得ハ收穫期ニ於ケル降雨量

キ爲極少量ニシテ其成果ハ僅少ナリ

醬油ハ原料ノ關係上作製スル餘剩砂糖糟ニ依リ酒類ヲ若

干生産セリ

(四) 被服

0986

宮古島産芋麻龍舌蘭ヲ以テ補修材料ヲ織布ス其成
果約二三ミヲ作製セリ

(1) 需品

紙ノ自活ヲ企圖シ昭和三年五月以降生産ニ從事セルモ技術
者少キタメトマリア有病地帯タリニ爲其成績不良ニシテ
五月以降終戦迄ニ和紙ニ六ミヲ採ヲ産出セリ

(2) 終戦時ニ於ケル糧秣現況表別紙第五ノ如シ

ニ補給輸送ニ於ケル船舶ノ損耗狀況

(3) 昭和三年一月以降ハ寄港船舶大部ハ敵機ノ好餌トナレリ

0987

又機帆船十月以降天候不良ニ原因シテ沈没破損等ヲ遭
難少ナカラス完全ニ任務ヲ完ラセル船舶十月十日ノ沖繩空襲
後ハ皆無ク状態ニ在リタリ

二十年一月以降、遭難船舶左ノ如シ

一月日祥神丸 揚陸中ニ敵機ニ撃沈セラル

二月日第三八、第三三機帆船團ハ天候不良ノ爲遭難

三月日大健丸 兵器大部ヲ揚陸セルモ敵機ノ攻撃ヲ受テ沈没

別ニ海軍船又數隻撃沈セラタリ

(2) 二十年五月台湾ヨリ漁船ニ依ル補給ヲ計畫シ終戦迄ノ間於

0988

テ左記軍需品ノ集積ヲ實施セリ

之間ニ於ケル漁船ノ損害ハ三隻ナリ

ハヨ訓練ノ狀況

一 訓練日ヲ一週一日トシ九月ノ飛行場設定作業期ヲ除キ確

實施シ當時ニ於ケル陣地ノ狀態ニ應スル訓練ヲ行フ

ニ地區隊長ヲシテ隨時檢閲ヲ實施セシメ集團長列席ス

三月下旬ヨリ四月上旬間陣地及訓練ニ關シ師團長檢閲ヲ

實施スリ六月ニ於テ畧々訓練ノ完成ヲ見タルモ益々之カ精到

ニ邁進ス

0989

三 訓練之重點

1. 水際戦闘

2. 對戰車戦闘

3. 對迫撃戦闘

4. 挺進斬込

(五) 戦闘之狀況

1. 参加之主要な作戦(戦闘之概況)

1. 台湾沖海空戦

航空部隊、陸軍飛行場、利用ニ密接ニ協同シ其ノ作戦

行動ヲ容易ナラシムト共ニ飛行場ノ防空ヲ強化シテ掩護ス

ニ 沖繩作戰

三月二十三日以降六月下旬迄連日五機乃至ニ三機ノ攻撃ヲ受テ激烈對空戦闘及宮古島各飛行場ヲ基地トスル

特攻機ノ進發援助ヲ以テ密ニ沖繩作戰ニ呼應ス

特ニ飛行場ノ復舊作業ト特攻機進發掩護ヲ爲真ニ危険ヲ冒シ犠牲ヲ忍ビ敢闘ス

戦死者實ニ數百ヲ算シタルヲ見テモ敵機ノ攻撃ハ如何ニ

0991

熾烈ナリシカラ察スルニ足ル

本作戰ニ於テ第三十軍ノ隷下部隊トシテ台湾軍司令官ヨリ
惑状ヲ授ケラル

ニ敵機動部隊ノ來襲狀況

一九〇〇比島沖台湾沖海空戰ニ參加セルモト推定セラル

敵機動部隊ノ一群ハ數日ニ亘リ沖繩本島東南方

ヲ游ビシ十月十日及十三日宮古島ニ對シ艦載機ヲ以

テ初空襲

ニ〇一比島作戰ノ陽動ト推定セラル機動部隊ニ群沖繩

0992

本島東方海域ヲ游弋一月三日及九日宮古島空襲

二 硫黃島方面參加機動部隊一隊南西諸島東

方海域ヲ游弋二月二十八日三月一日宮古島空襲

三 沖繩作戰開始ト共ニ機動部隊一隊乃至二隊主トシテ

沖繩東南方及宮古石垣東方海上ヲ游弋三月二十日

以降宮古石垣對シ艦載機ニ依リ連續空襲

四月上旬機動部隊交代セルモノ如シ

四三頃機動部隊更ニ交代セルモノ如シ

五二頃英國機動部隊一隊台灣沖ヨリ北上米國機動部

五四

一〇五―一三四 Bx2 Cx5 dx11 (英國機動部隊ノ如シ) 宮古
南方海上十五乃至二十料ヨリ艦砲射撃(攻撃自
標主トシテ飛行場) 射彈三八五發(主トシテα主砲)

五中旬

米國機動部隊ト交代セモノ如シ

同

右機動部隊一乃至三群 宮古東北四乃至三五料
附近迄近接セルモノ如ク數回ニ互リ電探捕捉ス

六下旬

機動部隊一應歸投セルモノ如シ來襲機ハ沖繩
本島ヨリ發進セルモノ如ク電探捕捉ス

三敵機來襲狀況

0994

一九〇〇	艦載機	一六機
〃〃三	同	三〇機
〃〃三	同	二〇機
〃一八	B29	一機
〃一九	艦載機	一二機
〃二六	同	六機
〃三一	同	五〇機

一月十日—三月下旬 B29 B24 連日小數機ヲ以テ哨戒偵察(基地比島方面ノ如シ)

0995

三三三 艦載機 三三機

三五 同 八〇機 爾後六月二十七日三十一日間五〇

機乃至三五機ヲ以テ連日來襲

五月上旬來襲機、米英聯合艦載機ナリ

五月中旬一八月上旬間飛行艇小數機ヲ以テ連日哨戒偵

察(基地沖繩)

七月上旬 以降艦載機來襲逐次閑散トシ一日平均二一三機

七月廿日 沖繩本島ヨリ初メ陸上機空襲アリ

八月五日 艦載六機ニ對テ周機空襲終ル

0996

沖繩作戦間天候其他依リ來襲キ日數四日間ニ
戦闘機ノ攻撃目標主ニ各飛行場曝露陣地一部平良
町及部落等

元二〇、二一、二二、二三、二四、二五間來襲延機數

戦闘ヲ目的トセルモノ四四五機

哨戒偵察ヲ目的トセルモノ大型機三機
計五二五機

飛行艇 六七〇機

四敵機ノ損害

宮古島

0997

隊		部		下		揮		指					
陸軍第四大隊第四中隊	特設機關砲第四中隊	第一飛行場整備隊	高島島嶼兵分隊 石垣島分隊	船浮陸軍病院	第六師團第三野戰病院	第三野戰野戰砲隊 支隊 西尾隊	水勤口中隊山口隊	陸勤口中隊田所隊	船舶兵三三一中隊肥島隊	安藝連隊第八中隊小野隊	陸軍自衛隊第六中隊中隊	陸軍第四師團成隊柴田隊	第八師團河津隊八木隊
球	球	球	球	球	球	球	球	球	球	球	球	球	球
九一九五	三三四五	一五三九二		四一七三	五六八一	八八一	八八四	六四六	六七四一	二七七六	七〇三〇	五五六四	五六一三
402	98	165	7	23	180	24	235	175	34	120	55	55	118
23	3	16		8	22	2	1	1	1	1	1	1	1
8	1	1		1	1								
355	87	139		19	144	14	14	160	30	108	53	53	105
1		2				2	207						
387	91	158		22	167	23	222	161	31	109	54	54	106

0998

昭和十一年
陸軍省
陸軍部

總 合 計	大 東 島 合 計	隊 備 守 島 東 大									石 垣 島 合 計	計
		特設第五機關砲隊	特設第四機關砲隊	豐島第三聯隊東邊隊	第六師團野戰砲兵之	第三艦隊野戰砲兵隊	獨立射擊第二中隊	獨立射擊第一大隊	大東島支隊	步兵第三聯隊		
				球	豐	〃	〃	〃	球	豐		
				八八三〇	五六七六		三三三二	四四六八	九七〇〇	五六一九		
36541	4873	90	90	30	95	78	140	140	1010	3200	5732	2271 2321
1503	165	1	1		11	2	5	2	28	115	252	112
524	752	11	9	4	16	13	16	20	143	520		39 15
26888	3788	72	74	24	63	60	118	109	826	2442	4882	1782
1023											239	212
34708	4705	84	84	28	90	75	139	131	997	3077	5412	2121

0999

表

獨					四					六			五	
旅團砲兵隊	獨歩兵第396大隊	獨歩兵第395大隊	獨歩兵第394大隊	獨歩兵第393大隊	旅團司令部	計	獨歩射擊第3中隊	獨歩射擊第5中隊	第4野戰病院	第1野戰病院	第2野戰病院	第1野戰病院	病馬收療所	兵器修理所
〃	〃	〃	〃	〃	碧		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	豊
三九四六	三九四四	三九四三	三九四二	三九四一	三九四〇		四七九九	四七九七	五六八三	五六七六	五六七三	五六七三	五六八五	五六六二
320	626	620	620	620	169	1227	144	144	183	82	135	45	11	
23	27	28	27	27	17	567	4	4	22	10	11	6	1	
67	106	116	112	107	24	2326	23	8	37	14	20	8	8	
261	469	456	453	467	95	2532	105	117	120	59	49	17	2	
						129								
371	602	600	592	601	136	1155	132	129	179	23	130	31	11	

六六〇三一團旅六第成混之独										〇四九二			
独 速射砲 第五大隊	独 機關砲 第八大隊	計	旅 團 通信 隊	旅 團 工兵 隊	旅 團 砲兵 隊	独 歩兵 第四〇 大隊	独 歩兵 第三九 大隊	独 歩兵 第三八 大隊	独 歩兵 第三七 大隊	旅 團 司令 部	計	旅 團 通信 隊	旅 團 工兵 隊
球										駒			碧
六三五〇	五三四八		三〇六九	三〇六八	三〇六七	三〇六四	三〇六三	三〇六三	三〇六一	三〇六五		三九四八	三九四七
432	338	3498	216	264	370	620	620	620	620	169	3579	215	275
18	18	146	6	4	17	26	26	26	25	16	163	7	5
91	68	686	32	27	77	126	132	127	125	40	578	24	24
334	242	2498	155	221	263	439	428	448	443	101	2610	164	225
423	328	3330	193	252	357	591	586	601	593	157	3351	195	254

指 揮 下 部 隊													
海軍第廿四大隊	獨有自動車第三中隊	野戦作井第六中隊	野戦作井第九中隊	野戦作井第八中隊	第三野戦築城隊中隊	第三野戦築城隊中隊	要塞建築第八中隊	水上勤務第一中隊	陸勤務第九中隊	獨有第四警戒隊	電信第三聯隊吉吉隊	野戦重砲隊	戰車隊
球													
二七九	七〇三〇	六六〇	七〇五二	七〇五一	一六二六	野口隊	二七七六	八八八四	六四一六	九五五四	八八三〇	四四〇一	二二〇二
800	128	108	108	108	107	108	215	430	315	55	71	588	118
22	4	3	4	5	3	3	2	4	4	2		16	7
90	14	15	26	16	6	5	12	13	10	10		103	50
654	105	84	75	84			196	27	298	39		467	56
					95	71		380					77
774	124	102	105	105	104	99	270	424	312	51		586	113
											野六師團通信隊ニ 聯屬ス		

指 揮 下 部 隊

第一艦隊南信島古隊	第二對空無綫隊	第三野戰氣象隊	第四艦隊修理廠島古班	特設機關砲第四中隊	第一飛行場大隊	信古島陸軍病院	第三野戰野戰先島廠	第三野戰野戰先島廠	第一野戰野戰修理班	北郊信古島古出發所	船塢第一野戰隊隊	海上機進第四戰隊	海軍航空隊第三大隊
〃	〃	〃	誠	〃	〃	〃	〃	球	〃	〃	曉	〃	球
八四九	三六二六	一九五五	五〇三三	三四四	七一四	六〇七一	八八二	八八二	五八八	六七五七	三七一	三七八〇	九七九〇
12	148	15	43	86	514	66	152	281	58	32	342	59	218
	3			3	28	5	9	9			9	10	19
	36			21	97	4	24	38			32	44	75
	106			61	380	56	109	225			295		684
					1	81	7						
	145			85	506	146	149	272			336	59	798
第一師團通信隊	第二師團通信隊	全	步兵第一聯隊二聯隊						全	第一師團通信隊			

ナリキ

日常頻用藥物及特殊藥物（強心劑各種、局
所麻醉劑、エタニン、ヤトレン類、ビタミンA、B、C劑、健
胃劑、重曹劑、檢索用及防疫用材料、サルバルサ
ン劑若干）ハ特ニ僅少ナリキ

藥物ノ現地自活ハ進駐當初ヨリ之意ヲ用ヒ現地
物資ノ利用、野生藥草ノ研究利用等銳意
實施ヲ圖リ來リタルモ、離島ノ限定セル資源
之ニ利用スヘキ材料ノ貧弱ナル現況ニ於テハ特筆

1006

スヘキ域ニ達スルヲ得ガリキ　ニニノ例ヲ舉クバ硫₂に
ヲ輸血用枸橼酸ソーダ代用トシ　下劑ハ獸醫
部ヨリ保管轉換セル芒硝人エカルス食塩ヲ使用
シ葡萄酒糖代用トシテ現地産白糖ヲ以テ乾化糖
ヲ製造使用シ沃丁タメ五%フォルマリン酒精_精ヲ使
用セシムル等之レナリ
又硫化カルシウム(現地砂糖漂白用)硫黄ヲ利用
ス　乾化糖液、生理食塩水、酒精、生(消)石灰
絹糸、海人草等ハ概テ需要量ヲ製シ得タリ

(七) 終戦ヨリ歸還迄行動概要

八月

十五日 終戦ニ關シ集團ノ今後トルベキ大綱ヲ示ス

十七日 戦闘行動即時停止ヲ命ス(台作命甲第三三號ヨリ)

直轄部隊長ヲ集合セシメ終戦及陸海軍人ニ賜リ

タル勅語並ニ陸軍大臣訓示ヲ傳達ス

二十日 長期駐留ヲ豫期シ駐留態勢整備要綱ヲ旨

活ヲ主トスヲ作定ミニテヲ^{指揮}下ニ示ス

二十日 各地區隊ノ配屬部隊ヲ原所屬ニ復歸セシム

千音 對敵作戰任務ヲ遂ルヲ以テ解除スル如ク令ス
千音 零時ヲ以テ幕進飛大對空無線等ヲ指揮下ニ
入ル

二十九日 局地停戦交渉關シ海軍部隊ヲ指揮下ニ入ル

九月

三日 局地停戦協定ノ權限ヲ集團長ニ委任セラル依
テ多賀少將以下ノ各委員ヲ命ス

五日 停戦協定打合セ爲多賀少將以下ヲ沖繩ニ派遣ス
(四) 停戦協定委員ニ對シ米第十軍ヨリ武裝解除等

七日集團長沖繩ニ於テ米第十軍司令官ヲモテ此大
將ト正式降伏調印ヲ行フ

十日米軍調査員初メ來島宮古島測候所ニ宿泊ス

十日大本營ノ解散ヨリ方面軍ノ戦闘序列ヲ解組サレ臺

灣軍管區司令官(安藤大將)ノ隸下トス

十日海軍飛行場米軍トノ連絡所ヲ設置ス

十日米國第十軍南琉球特別作業隊到着ス(長キヲ齋將

米軍トノ連絡所ヲ支廳ニ設ク

十日宮古地區兵器奉還開始

二十日 教育企画書ヲ作成シ停戦後ノ教育ニ關シ指示ス
二十日 宮古島ノ兵器奉還一時終了ス
二十日 米軍ヨリヤシ准將部隊ヲ逃脱ス

十月

五日 石垣大東方面兵器奉還ノ爲杉本參謀以下ヲ派遣ス

八日 石垣方面兵器奉還終了ス

九日 沈没船ノ破壊及第三埠頭修復ヲ實施ス

(四) 駐留及終戦處理ニ關シ團隊長會同ヲ實施ス

十日 大東方面兵器奉還終了ス

十月

三日式典舉行後相撲大會展覽會ヲ實施ス

八日復員輸送本格化ニ伴ヒ將侯校橋ヲ構築ス

手書各地區隊内主要道路ノ補修ヲ實施ス

手書米軍宮古島ニ軍政ヲ敷

十月

一日復員後ノ指針ニ就テ大隊長集合教育ヲ實施ス

十日集團長納見敏郎中將腦溢血ニ依リ永眠ス

二十日不許可將校米船ヨリ出航ス

1012

三吉大東地區ノ復員輸送ヲ終了ス

壬午年

一日拜賀式ヲ舉行シ聖壽島成ヲ三唱ス

新生日本ノ第一歩ヲ踏出ス

七 旨 石垣ノ復員輸送ヲ終了ス

三 旨 糧秣被服及國有財等ヲ米軍ニ引継ガレテ了ス

二 旨 師團司令部米船ヲ以テカネハクニ號ニ乘船宮古島ヲ出發

各司令部浦賀ニ上陸

一 旨 司令部師團長代理安藤將以下復員ニ第三十八師團

茲ニ解散ス

主力上陸以來月別死亡者發生ノ狀況別紙第
非ノ如シ

之石垣地區 進駐兵力僅少ナリシ爲衣食住共ニ
余祐多ク當初傷病發生狀況ハ比較的良好
ニシテ豫後又佳良ナルモノ多カリシモ六月以來作戰
ノ要求ニヨリ石垣島北部山嶽地帯陣地ニ移駐
スルニ及ビ軍民共ニ「マリア」ノ爆發性流行ヲ来セリ
之カ對策ノ爲終戰後司令部部員及師團
防疫給水部一部ニ拂底セル衛生材料ノ中ヨリ

区別	病名	新患総数	マラリア	急性腸炎	気管炎	外傷	肺結核	其ノ他
入院		四〇九	一三〇	一	二	一	二	六二
在隊		二九二	一一五	五	二	二	二	六六
合計		二六〇	二四五	六	四	三	四	一二八
全員對症		五〇九	四七三	〇一	〇〇九	〇〇五	〇〇九	

所要品ヲ携行セシメテ派遣石垣地區防瘧指導
 及之檢索治療等ニ努力セリ
 八月三十日現在ニ於ケル傷病者發生狀況左表
 ノ如シ

大東地區 各島共ニ衛生施設比較的完備シ
 マラリア^レ及其他風土病地方病共ニ極メ^ニ少ク
 衛生環境整備セラレアリテ石垣地區ニ比シ更ニ
 衣食住ニ餘裕アリ(地方民ノ一部疎閑引揚ラ實
 施セリ)且計畫的補給ヲ完全ニ受ケ得タリシ等
 ノ原因ニヨリ傷病者發生ノ狀況及之等ノ豫
 後等ハ集團中最モ良好ナリ

九月ニ於ケル傷病者ノ發症狀況左表ノ如シ

區分	新發症	結核	脚氣	感冒	外傷	皮膚病	胃腸	其他	死亡
----	-----	----	----	----	----	-----	----	----	----

三 地方衛生狀況

一般ニ各島共住民ノ衛生思想極メテ幼稚ニテ
 個人公衆衛生諸施設極メテ不備不全ナリシ
 ヲ以テ傳染病、皮膚病、眼病等多シ
 地方醫師會及各島共ニ第一項記載ノ醫師
 有リタルモ個人醫院ヲ開設收療ニ從事シアル程

計	北大東	南大東
一九〇	四九	一四一
二八		二八
六		六
一〇	三	八
三七	三	三
一六	一	五
二三	九	一四
一九	一	八
五一	一	四〇
四		四

度ニシテ積極的衛生思想ノ向上、衛生施設改
善等努力スルユトナシ 又宮古島石垣島共ニ
夫々内務省ノ「マラリア」防遏所存在シ宮古島
ハ縣防疫醫一、石垣島ハ「マラリア」防遏醫一ア
リテ夫々數名、所員ヲ擁シアルモ單ニ「マラリア」患
者ニ投藥スルノミニシテ防瘧工作ハ殆ント實施
シラザル狀況ナリ 且軍隊進駐前數年間ハ
前記投藥スラ豫算ノタメ所要量(患者ニ對
スル)ノ數十分ノ一ナリキ

高進駐當時ハ宮古、石垣及之等附近小島ニ普
ク癩患者分散シアリタルヲ以テ計畫的一齋ニ
之ヲ探出宮古島北端癩患療養所(南靜園)
ニ強制收容スル 但空襲ニヨリ病舎ノ過半焼失
ニヨリ一部逃亡セルヲ以テ終戦後強制收容ニ
努メタリ

之ヲ要スルニ各島住民ハ老若男女ヲ通シ衛生
思想眞ニ幼稚ニシテ此ニカモ意識セスシテ巧機
非衛生環境中ニ生活シアリ之カ指導ハ將來重

大ナル問題ナリ

四部隊宿營ノ狀況

終戦後各隊共ニ地上生活ニ移行ス

但シ極メテ簡易ナル野戰式急造バラックナリ

洞窟生活ニシテ良好ナリシモ
越冬ノ為ニ甚ク困難ヲ感シタリ

五給養實施ノ狀況及將來

前各項記載ノ如ク現ニ宮古島石垣島共ニ給

養全般~~將來~~ハ識ニ寒心ニ堪ヘサルモノアリタリ

將兵一般ノ榮養狀況ハ八月ニ於テ最モ不良ニシテ

疾病ノ發生予後ノ不良榮養失調等ニ基因
スル損耗大ナルモアリ

三月以降ハ後方ヨリノ補給ハ僅カニ集々集團、
自カニヨル挺進海上輸送ニヨリ中瀆ヨリ生業兼濟
水艦攻撃ヲ受ケテ數十噸程度ノ小型船舶ヲ
以テ主食(玄米)ヲ輸送シ全般ニ玄米保有量
三ヶ月程度ニ保持セリ

各部隊ハ終戦後全方ヲ舉ケテ自活ニ邁進利
用シ得ヘキ荒地ハ急ク之ヲ開墾銀甘薯畑トシ

豚山羊ノ増産ニ努メ漁撈ニ徹底スル等夜ヲ
日ニ継キテノ活動モ氣候不順ト九月初旬以來
ノ引續ケル颱風ノ被害僅少ナラス且
兵器奉還作業「マリア」患者ノ多發曲辰具漁具
ノ拂底等諸種悪条件累積ニ上月ヨリ主食
甘サ諸一勝給養ヲ辛シテ實施スル
終戦當時各部隊ノ給養カロリハ概ネ二〇〇カロ
リーニ達セルモ各業養ノ配當比等顧慮ニ得サルト
各種ビタミンノ補給量僅少ナリニ為眞要慮

ニ堪ヘサルモノアリタリ

三
年
六月至近時期ニ決戦ヲ予期シ一月全員ニ

對シ動物性蛋白質及脂肪給與ノタメ連續一

人一日六。瓦ノ馬、豚肉給與ヲ實施シ大イニ兵員

ノ体力氣力ノ増進ヲ見セシメタルコトアリタリ

終戦後各種戦用糧秣ヲ使用シ得ルニ至リタ

ルト對敵顧慮ナク澳ノ粉ニ從事シ得ル等

自若モ逐次改善シ來リタルタメ終戦直後ニ

於テ平均主食米四五。瓦甘藷五。一。一。一。瓦

副食トシテ四〇〇六〇及ノ各種罐詰干野菜及野
草、甘サ諸菜魚類等ヲ相當量給テ得テ好條
件ヲ以テ平均ニ五〇〇〇ニ六〇〇カロリーノ程度ノ給養
ヲ續行シ得タリ

六防疫並ニ給水ノ狀況

各島共ニ衛生思想幼稚且衛生環境極メテ不
備ナルニ關ハラス至嚴ナル防疫軍紀確行ニヨリ
各種急性傳染病ノ爆發性流行ヲ見サリシ
ト雖モ腸管系急性傳染病殊ニ細菌性赤痢

賜チフス、ハラチフスノ散發アリ

給養素悪衛生材料不足施設ノ不備等
ト相俟チ死亡者ノ多發原因トナリタルハ遺憾ノ
極ナリ

然レトモ各種悪環境ヲ克服シ各部隊長以
下防疫ニ細心ノ注意ヲ拂ヒ防疫軍紀徹底
ニ努カセリ

三月以降大東地區、南大東島ニ於テA型上ハラ
チフスノ比較的多發ヲ見タルモ六月ニ殆ント

終熄ニアリ

復員輸送、際、乗船前検査輸送間

船内防疫ニ關シテハ一層防疫軍紀ヲ振作シ

乗船前全員ノ檢便身體被服裝具ノ完全

消毒、船内殊ニ厠調理場ノ衛生管理汚染

防止ニ意ヲ致シ不慮ノ傳染病流行防止ニ遺

憾ナキヲ期シタリ

島給水ハ對空戰鬥洞窟棲息時期ハ別所

困窮ヲ極メ之カ給水對策ニ腐心セルモ防疫給

水部及作井隊ノ活動ニヨリ需水量ニ概ネ支障
ヲ來サザリキ 水質ハ相當度ノ硬水及塩分多
キモノヲ認メタルモ 飲用ニ支障ナシ

七 防瘧ノ狀況

宮古島石垣島ニ於テハ防瘧ハ集團進駐以來衛生
機關活動ノ最重點トシテ軍ハモトヨリ地方住民ニ

至ル迄防瘧軍紀ヲ嚴正ニ履行スル傍ヲ治水
排水等環境整理ニ腐心又數ヶ所ニ散在スル
天水及湧水利用ノ小規模水田等ハアノ左レニ培
養

池タリシヲ以テ沖繩軍及縣當局ノ諒解ノ下
ニ米作ヲ禁止シ且昭和十九年末台灣熱研
宮原大森西教授ノ派遣ヲ受ケ「マリア」及「マ
リア」蚊「茲」防瘧諸對策等ニ就キ徹底セル教育
ヲ實施スル等全カヲ集中西島ノ「マリア」ノ抜本的
根絶ニ邁進シタリ而シテ檢索用治療用諸衛生
材料ハ常ニ入手確保ニ多大ノ困難ヲ來シタルモ總
ユル創意工夫ヲ凝シ概ネ支障ナカリキ

八衛生材料ノ狀況

1028

前各項記載ノ如ク衛生材料ニ於テモ未夕集積
確保ニ至ラサルニ輸送杜絶シ保有材料ハ極メテ
僅少ニシテ日常ノ診療ニモ支障ヲ來シアリタル
狀況ナリシヲ以テ重莫使用ノ徹底現地自活ノ
擴充等ニ努メタリ

終戦後ハ亦戦用トシテ愛護温存シアリシ材料
ノ繰替へ使用及貨物支廠保有材料ノ大部ヲ
各患者收療機關迄ニ部隊ニ補給シ精々愁
眉ヲ開キタルモ尚極度ノ緊縮節用ヲ要スル状態

石垣島

擊墜破 四四機

五落不時著降下者三對不處置

十月十三日艦載機一機宮古島南海岸不時著俘虜

一名捕獲後憲兵隊收容所要調査上十月十九日輸送

擊破 二機

擊墜		
TBF	F4U	F5F
五機	一八機	六機
二九機		

四九機

機ヲ沖繩第三十三軍司令部ニ送付ス

二月九日艦載機一機宮古島西海岸ニ不時著陸虜一名
捕獲後憲兵隊ニ收容所要調査ノ上月十五日輸送機ニ

テ沖繩第三十三軍司令部ニ送付ス

三月四月二十九日艦爆一機一名ノ落下傘降下捕獲後憲兵隊

ニ收容七月十日輸送機ヲ台湾軍司令部ニ送付ノ爲

搭乘スモ離陸ト同時ニ機関故障ノ爲墜落操縦手

以下九名ト共ニ慘死依ツテ遺骨七月二十五日船便ヲ台湾

軍司令部ニ送付ス